

稽古を通して「人」を育てる

12月下旬、公演まで1か月を切ったこの日、冬休みに入った子どもたちの稽古の場にお邪魔しました。

稽古は必ず礼に始まり礼で終わります。奥内歌舞伎保存会の井田会長は、始まりの15分以上をかけて、一人ひとりの顔を見据えながらお話をします。

「稽古が始まる少し前はどのような心でなければならぬのか」「本番に風邪などひかない

いたためには、普段からどのような生活をしなければならぬのか」「体調不良の子に変わって役をもらうことを、ただ喜ぶだけでなく良いのか」。あえて質問し、子ども達の口から答えさせます。井田会長は、ただ上手な演技ができれば良いのではなく、稽古を通して、協力し合う姿勢

や相手を思いやる心、感謝の気持ちや友人との絆を子ども達に伝えていきます。



師匠の話も稽古



上 雅な所作をしっかりと学ぶ間の取り方、角度、さまざまなことをひとつひとつ確実にものにしていく



稽古が終われば優しい「じいちゃん」。思いやりたっぷりの子どもたちからおやつを手渡され、表情も緩む。

7年ぶりの花魁 観客を魅了

写真左：畑中真幸さん 高校3年
右：石澤祐佳さん 中学1年



「本番が近づいてきて緊張はしているけど、稽古をしっかりしているから大丈夫」「本番の舞台の広さを想定して稽古に臨んでいる」と力強く話してくれた畑中さんと石澤さん。

舞台から下りてくる二人の表情からは、稽古どおり上手に舞えたことがうかがえました。

地域がひとつになってつなげていく

奥内歌舞伎保存会婦人部をはじめ、さまざまな力が舞台を支えています。地域の古き良きを体感している大人たちが、一丸となって未来につなげていきます。

奥内の役者の姿に 苦労むくわれる

婦人部部长 畑中 春江 さん
(写真左)

婦人部の役割は、配役に合わせて役者の背丈に合う衣装を準備すること。場合によっては、自分たちで作ることもしばしば。古いものは大事にしなが、少しずつ新しいものも増やしています。ここ1週間は作業しっぱなしです。でも、昔も今も衣装を着て化粧してかつらを被った奥内の立派な役者を見ると、苦労を忘れてしまいます。



「昔の衣装はみんなぼろぼろだったね」と思い出話も。



化粧、かつらは岩手県北上市の橋本かつら店が全面協力



本番の舞台設置にも数多くの縁の下の力持ちたちが

芸をつなぐ 遊女梅川を熱演

鳥山 勝亮 さん

普段あまり女形を演じないので、今回は久しぶりの女形です。身ぶり手ぶりよりも声の出し方が大事という女形について、もらったアドバイスは「大きい声を出すことだけ。試しに大きい声を出したら、意外に良い声が出たので、あとは自分なりに工夫しています。10月ころから台詞を覚え、11月からは所作に入りました。



奥内歌舞伎は、地域の伝統芸能を保存すると同時に地域に活力を与え、大人から子どもまでが参加し、地域コミュニティをより活性化させていきます。一度絶えかけた伝統を再興させたからこぞ知っている、伝統をつなぐことの大切さ。これからも地域の力を大切にしていきたいと、改めて感じる新春公演になりました。



終演後、観客を見送る役者の手に「育みの箱」。温かい支援は、また次の公演につながる



表紙
1月22日(日)奥内歌舞伎第20回新春記念公演「花魁道中」

- 目次 Contents
- 2 特集奥内歌舞伎20年
- 6 まさかり高校SMILE Project
- 8 図書館だより
- 9 エイミーのヨモヤマ話他
- 10 information
- 18 学習状況調査の結果
- 19 健康コーナー
- 20 消費生活センターだより他
- 21 あつと陸奥覧
- 24 この人むつちゅ星他



3
2017
vol.33